

第 31 期

(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

事 業 報 告 書

公益財団法人 双日国際交流財団

第31期（平成29年4月1日～平成30年3月31日） 事業報告書

公益法人へ移行後6期目となった第31期、平成29年度（平成29年4月1日～平成30年3月31日）は、基調事業としての奨学金助成、国際交流助成等の助成事業を実施し、またその他事業として、機関誌「財団だより第14号」の発行と関係先への配布及び財団ホームページの管理・運営を継続、実行した。

財団の財政収支面では、今年度も双日㈱から事業費及び管理費向に500万円の寄附があった。基本財産の運用においては、依然として金利水準が低迷する中、平成29年度年間で3,920万円の運用収益を確保できた。

基本財産を形成している債券の価額は、評価益が200万円増加となり、今期末の基本財産額は前期末比214万円増加の合計22億3,617万円となった。

〔I〕 今期の事業の概要

a. 助成事業

今年度の助成事業は、平成29年度事業計画に定められていた31案件計2,969万円の助成を実施した。

以下に、各助成案件の概要を報告いたします。

イ) 学術研究助成

今年度は見送りとなった。

ロ) 奨学金助成

1. 当財団奨学金制度による外国人私費留学生への奨学金助成 (1,703万円)

今年度5月～6月の補充選考を経て、前年度に続き、合計17名の以下の奨学生に対し奨学金を支給した。

- | | |
|----------------|-----------------------|
| ①ビャンバ ボロルチメグ | (北海道大学大学院 環境科学院) |
| ②タマウオング ナタポング | (筑波大学 生命環境学群) |
| ③クーリング カタリナ | (早稲田大学大学院 アジア太平洋研究科) |
| ④アフザル ナヴィード | (東京工業大学大学院 情報理工学研究科) |
| ⑤リュウ イモウ | (東京工業大学 工学部化学工学科) |
| ⑥アブドサラム アリキン | (横浜国立大学大学院 教育学研究科) |
| ⑦アルマスリ ヤヒヤ | (大阪大学大学院 国際公共政策研究科) |
| ⑧ナルツエフ オタバック | (神戸大学大学院 法学研究科) |
| ⑨グエン カン ツー ハ | (立命館アジア大洋州大学アジア太平洋学部) |
| ⑩グエン ティ タン フーン | (東北大学大学院 工学研究科) |
| ⑪ロ キンヨウ | (一橋大学大学院 商学研究科) |

- | | | |
|---|---------------|-------------------------------|
| ⑫ | グレッグ カイ エルヴィン | (東京大学大学院 公共政策学) |
| ⑬ | リュウ シ リン | (慶応大学大学院 文学研究科) |
| ⑭ | ガーダ サイード | (上智大学大学院 グローバル・
スタディーズ研究科) |
| ⑮ | リュウ ガン ツ ウェン | (名古屋大学大学院 人文学研究科) |
| ⑯ | チョウ ヘキ ショウ | (京都大学 工学部 工業化学科) |
| ⑰ | カンドル ナラヤン | (九州大学大学院 経済学府) |

2. 国際大学奨学金制度への助成 (120万円)
 国際大学が、同大学に在籍する外国人私費留学生に支給する同大学の奨学金制度の中
 の Sojitz Foundation Scholarship に対して助成を行った。

ハ) 国際交流助成
 (国際会議等)

1. 「第 69 回 日米学生会議」への助成 (40万円)
 「己を省み、人を知る。～価値観の共有から生まれる可能性～」をテーマに日本 4 地域を
 巡りながら、7つの分科会で率直な対話を重ね相互理解を深めた。
 事前の勉強会・研修(沖縄)を行った。
 開催時期： 2017年8月7日～28日
 開催地： 日本(京都、愛媛、三重、東京)
 参加人員： 日本 35名、 米国 32名 計 67名
2. 「第 36 回 日中学生会議」への助成 (40万円)
 「日中活論 表層から深層～対話から実感する未来～」のテーマの下、東アジア安全保
 障、教育、メディア、格差、経済、歴史の分科会に分かれ、事前活動も行い、議論を
 行い、日中間の現在の関係に相互理解を深めた。
 開催時期： 2017年8月8～24日
 開催地： 日本(長崎、大阪、東京)
 参加人員： 日本 32名、中国 30名 計 62名
3. 「2017年度日中青年会議」への助成 (35万円)
 「人々がお互いを理解せずはどう平和は存在し得るだろうか？そして人々がお互いを
 知らなければどう相互理解を獲得し得るだろうか？」をスローガンに日中間の共通点
 や相違点を議論して、お互いに理解を深めることができた。
 開催時期： 2017年7月21日～27日
 開催地： 中国(香港)
 参加人員： 日本 20名、中国 30名 計 50名

4. 「第12回 日本台湾学生会議」への助成 (40万円)
留学生の就職に関して、貿易、観光、メディア、ジェンダー、家族関係、環境問題、自然災害の分科会で、それぞれのテーマについて討議を行い、お互いの理解を深めた。文化交流、山梨への観光も行った。
開催時期： 2017年8月14日～21日
開催地： 日本（東京、山梨）
参加人員： 日本46名、台湾42名 計88名
5. 「第33回 日韓学生フォーラム」への助成 (40万円)
「Go Beyond to Shine Together」をスローガンに、日本で開催。事前合宿を行い、地域共同体、結婚と家族、産業革命、広報文化外交、人種差別をテーマにしたシンポジウムを開催し、政治/経済/歴史/社会/文化の分科会にてそれぞれテーマを設定してディスカッションを行った。
開催時期： 2017年8月7日～21日
開催地： 日本（沖縄・東京）
参加人員： 日本13名、韓国14名 計27名
6. 「第21期 日本インド学生会議」への助成 (40万円)
日本の出版業界とコンテンツ発信、日本の教育制度、日本とインドの迷信等につきブレゼンテーションを行い、議論をして考察を深めた。観光・文化交流も行った。
開催時期： 2017年8月2日～13日
開催地： 日本（東京）
参加人員： 日本10名、インド11名 計21名
7. 「第29回 日本ロシア学生会議」への助成 (40万円)
ハバロフスクでは都市開発、経済、環境、移民、モスクワでは政治、経済、文化、社会の分科会を開催し、討議をして理解を深めた。
開催時期： 2017年8月5日～19日
開催地： ロシア（ハバロフスク、モスクワ）
参加人員： 日本9名、ロシア25名 計34名
8. 「第21期 日本トルコ学生会議」への助成 (40万円)
芸術、観光産業、政治につき分科会討論を行った。文化交流も行った。
開催時期： 2017年8月1日～8日
開催地： 日本（大阪、京都）
参加人員： 日本10名、トルコ4名 計14名

9. 「第2回 日英学生会議」への助成 (40万円)
“How do we want to shape our future?”と題して、国際主義と孤立主義の狭間としての移民と移民に係る問題を、移民の概要、社会的融合と同化+人権、経済+安全保障について発表し討論した。観光・文化交流も行った。
開催時期： 2017年9月6日～14日
開催地： 日本（東京）
参加人員： 日本6名、英国9名 計15名
10. 「第18期 日本ケニア学生会議」への助成 (35万円)
ケニアの3大学で、ビジネス、国際協力のテーマにつき分科会討論を行った。
又、分科会テーマに付き日本大使館でシンポジウムを開催した。
開催時期： 2017年9月18日～26日
開催地： ケニア（ナイロビ）
参加人員： 日本3名、ケニア46名 計49名
11. 「第16回 日本ルワンダ学生会議」への助成 (35万円)
両国の学生がそれぞれ興味・関心がある分野や社会問題などからトピックを決め、プレゼンテーションを行い、そのトピックに関連したディスカッションや意見交換を行った。文化交流も実施した。
開催時期： 2017年8月5日～15日
開催地： ルワンダ（キガリ）
参加人員： 日本10名、ルワンダ19名 計29名
12. 「第15回 日本・イスラエル・パレスチナ合同学生会議」への助成 (40万円)
個性、積極的な参加と貢献、相互の尊重をキーワードとして、5つのトピック、「日常の困難」「メディア」「教育」「ダムの問題」「現状とその先へ」についてプレゼンテーション、質疑応答、議論を通してお互いの理解を深めた。
開催時期： 2017年8月4日～21日
開催地： 日本（広島、東京）
参加人員： 日本7名、イスラエル6名、パレスチナ2名 計15名
13. 「日本中東学生会議2017年度招聘事業」への助成 (30万円)
「貧困」をテーマとして、討議した。アラブ首長国連邦、ヨルダン、エジプト、ソマリア、パキスタン、トルコの参加者からはそれぞれの国の説明があり、フィールドワークでは山谷を訪問し、ディスカッションを行った。都内及び富士山観光も実施した。
開催時期： 2017年8月21日～31日
開催地： 日本(東京)
参加人員： 日本8名、中東側7名 計15名

14. 「北東アジア学生ラウンドテーブル 2017」への助成 (30万円)
「北東アジアの協力強化～国際社会での発展のために～」というテーマで4ヶ国の学生が、教育、人権、人口知能、男女平等の分科会で議論をしてお互いに理解を深めた。
開催時期： 2017年7月30日～8月7日
開催地： モンゴル（ウランバートル）
参加人員： 日本21名、モンゴル18名、韓国13名、台湾20名 計72名
15. 「2018 模擬国連会議全米大会第35代日本代表団派遣事業」への助成 (25万円)
今年度の提携校ニュージャージー州立ストックトン大学の学生と交流を行い日本文化の紹介をした。ニューヨークでは国連が取り扱う国際問題を解決する為に議論をした。ストックトン大学との合同代表団で、オーストリア大使という立場で各会議に参加した。
開催時期： 2018年3月13日～29日
開催地： アメリカ（アトランティックシティ、ニューヨーク）
参加人員： 日本10名、アメリカ・ドイツ・フランス・中国・南アフリカなど300以上の大学から約5,000名
16. 「グローバル・ネクストリーダーズフォーラム 2018 本会議日本大会」への助成 (30万円)
日本、アフリカ、中近東、東欧など13ヶ国からの学生・教授が東京に集り、「ジェンダー」をテーマに、いろんな観点から議論を行い、報告会も開催した。文化交流、東京観光も行なった。
開催時期： 2018年2月22日～3月2日
開催地： 日本（東京）
参加人員： 日本6名、キルギスタン、ブラジル、ブルガリア、フランス、スロバキア、ブルガリア、南アフリカ、中国等より12カ国28名 計34名
17. 「STeLA Leadership Forum 2017」への助成 (35万円)
次世代の国際的理工系リーダーを目指す日本・ヨーロッパ・中国の理工系学生が一堂に会し、「Technology, Responsibility, Society」をテーマに、リーダーシップを学び、「持続可能な開発目的」から17課題を題材にしてワークショップを行った。
開催時期： 2017年8月6日～14日
開催地： オランダ（ライデン）
参加人員： 日本9名、中国13名、ヨーロッパ・中東14名、 計36名
18. 「Y7 Youth Summit 2017」への助成 (30万円)
毎年G7サミット開催に合わせて開かれるこのYouth Summitは、今年度は、イタリア・ローマでの開催となった。事前活動において種々意見交換を行い、「生産改革」、

「今後のあるべき教育の姿」及び「労働や社会福祉の将来」に付き分科会にて討議を行い、G7のリーダーへの提言を行った。

開催時期： 2017年5月7日～9日

開催地： イタリア（ローマ）

参加人員：日本4名、G7諸国28名 合計32名

(国際交流)

19. 「CEPEX Japan Studies Award」への助成 (36万円)

米国のNPO法人CEPEXが、行うアメリカ人日本専門家育成プログラム「Japan Studies Award」。このコンテストの優勝者には、ワシントンDCの日本企業での11日間のインターンシップの経験及び11日間の日本訪問の機会が与えられ、サイバーセキュリティについて考察が行われた。

開催時期： 2017年5月16日～26日

開催地： 米国（ワシントン）、日本（東京）

20. 「ジュニア・フェロー・リーダーシップ・プログラム」への助成 (30万円)

選抜されたアメリカの高校生が東日本大震災で被害にあった地域を訪れ学び、東京では企業訪問を行なった福島ではホームステイを体験した。

開催時期：2017年7月5日～21日

開催地： 日本（宮城、福島、東京）

参加人員：アメリカ10名

21. 「“Mr.J”プロジェクト 日本語夏期講習サマースクール」への助成 (40万円)

ウランバートルにある「新モンゴル高校」を舞台にして、日本の大学生が教師役となり、モンゴル高校卒業予定者を対象に、日本の詩や歌を含む日本語の授業、日本の社会生活の学習を行うサマースクールが開催された。スピーチコンテスト・詩の朗読大会も実施した。

開催時期：2017年7月31日～8月25日

参加人員：日本8名、モンゴルの生徒：250名

22. 「日本・インドネシアの若手ソーシャルリーダー育成・交流事業」への助成 (30万円)

研修生は、一般家庭に滞在しながら、各自が興味ある事業を行なう団体でインターン生として勤務し、仕事を体験し、休日には、日本の学生と文化体験や料理を通じて交流した。

開催時期：2018年2月18日～3月16日

開催地： 日本（京都）

参加人員：日本側関係者440名、インドネシアの研修生：7名

23. 「International Development Field Camp for Myanmar and Japan Youth Leaders 2018」への助成 (40万円)
「Happiness」をテーマとして、フィールドワークを行い、議論を行い、シンポジウムを開催した。
開催時期： 2018年2月12日～21日
開催地： ミャンマー（ヤンゴン）
参加者： 日本12名、ミャンマー15名 計27名
24. 「アジアと新潟をつなぐ農業共働プログラム」への助成 (30万円)
農業関係の施設の訪問を行い、海外での米加工品販売について議論を行なった。伝統衣装披露、郷土料理などを通して、交流を深めた。
開催時期： 2017年9月19日～25日
開催地： 日本（新潟、東京）
参加者： 日本43名、インドネシア7名、ネパール2名 計52名
25. 「MPJユース2016年度アフリカ研修事業」への助成 (30万円)
教育施設、道路公団等を訪問し、「ジェンダー」「経済開発」「教育」をテーマとして、3分科会でタンザニアの大学生とのディスカッションを行い、お互いに理解を深めた。
開催時期： 2018年2月14日～28日
開催地： タンザニア（ダルエスサラーム）
参加者： 日本15名、タンザニア27名 計42名
26. 奨学生交流会 (175万円)
財団の奨学生同志及び財団役職員との交流・親睦の為、並びに奨学生ネットワーク作りを目指し、毎年開く奨学生交流会。初日は、奨学生、財団役職員及び双日(株)の関係者も加わっての東京のホテルでの懇親会、2～3日目は東京・鎌倉・横浜方面への研修旅行というプログラムで開催された。この交流会を通じ、奨学生同志の親睦が一層深まった。
開催時期： 2017年9月14日～16日
参加者： 奨学生・奨学生OB 19名、役員他関係者 36名 計55名

(日本文化紹介等)

27. 「第42回 ジャパンウィーク 2017年 チェコ・プラハ」への助成 (30万円)
日本各地から参加する多様な団体による、日本の伝統芸能、伝統工芸、音楽等幅広いジャンルの日本文化紹介を通じて、日本に対する理解を深めると同時に、地元市民との交流を図る企画。今年度はチェコ・プラハで開催された。
開催時期： 2017年11月18日～23日
開催地： チェコ（プラハ）

参加者： 日本側 77 団体 1,300 名、チェコ側 1 団体 50 名、来場者 40,000 人

(日本語普及事業等)

28. 「第 22 回海外高校生による日本語スピーチコンテスト」への助成 (30 万円)

各国の予選を通過した代表を日本に招聘し、スピーチコンテストが行われた。
異文化交流プログラムも行われ、お互いの文化を理解し、ホームステイも行われ、
国境を超えた友情を深めた。

開催時期：2017 年 7 月 26 日～8 月 6 日

開催地： 日本 (今治・川崎)

参加者： 15 カ国(中国、韓国、アメリカ、イギリス、ロシア等) 計 16 名
大会観客 1,000 名、各国(予選)大会総出場者 約 3 万名

29. 「日本語学習中のスリランカ学生を対象とした日本研修事業」への助成 (30 万円)

和食、着物の着付け、折り紙、茶道等で日本文化の紹介を行い、高校見学を行い、
スリランカ料理、文化の紹介も行なった。

開催時期： 2017 年 9 月 25 日～10 月 4 日

開催地： 日本 (豊中)

参加人員： スリランカ、ウズベキスタン等 18 名、日本高校生 850 名

b. その他の事業

「その他の事業」として、次の 2 事業を行った。 合計 160 万円。

1. 財団ホームページの更新・運営 (38 万円)

前年度に引き続き、外部に対する情報発信ツールとしての財団ホームページの更新・
維持・運営を行った。

2. 「財団だより - 第 14 号」の発行 (122 万円)

平成 29 年 9 月「財団だより - 第 14 号」を発行し、関係省庁、他財団ほか助成先、
財団関係者、母体会社の双日株式会社の本社・支社・海外店及び関係会社に配付し、
平成 28 年度の事業報告及び財団の活動の PR を行った。

[Ⅱ] 管理・庶務事項

- 平成 29 年 4 月 1 日 平成 29 年度奨学生募集を開始
- 5 月 16、17 日 会計監査人による決算監査
- 5 月 23 日 第 92 回選考委員会を紙上開催
- ・平成 29 年度奨学生 8 名を補充選考
- 6 月 6 日 第 90 理事会を開催
- ・平成 28 年度事業報告書及び決算報告書を承認
 - ・6 月 22 日の定時評議員会開催を決議
 - ・平成 29 年度奨学生 8 名を承認
- 6 月 22 日 第 69 回定時評議員会を開催
- ・理事 9 名、監事 2 名の選任
 - ・平成 28 年度の事業報告並びに決算報告を了承
- 第 91 回理事会を開催
- ・佐藤洋二理事を理事長に選出、楢引雅亮理事を専務理事に選出
 - ・理事長・専務理事の職務執行状況の報告
- 6 月 29 日 平成 28 年度事業報告書並びに決算報告書を行政府「内閣府」に提出
- 9 月 11 日 機関誌「財団だより 第 14 号」を発行
- 9 月 14 日～16 日 「財団奨学生交流会」を開催
- 11 月 1 日 平成 30 年度国際交流助成募集開始
- 12 月 24 日 平成 30 年度国際交流助成募集〆切
- 平成 30 年 2 月 20 日 第 93 回選考委員会を開催
- ・平成 30 年度助成案件を選考
 - ・奨学金の対象校を 4 校追加選定
- 3 月 20 日 第 92 回理事会を開催
- ・平成 30 年度助成案件(案)及び平成 30 年度事業計画(案)を承認
 - ・平成 30 年度収支予算(案)を承認
 - ・選考委員 6 名を選出
 - ・奨学金の対象校を 4 校追加選定
 - ・理事長・専務理事の職務執行状況の報告
- 3 月 29 日 平成 30 年度事業計画書及び収支予算書を内閣府に提出

以 上